

## Be Better

「知行合一」を備えた KUJI-JAYCEE の躍動による  
「生きる力」の育成と「まちの力」の共有

### 社団法人久慈青年会議所を受け繋ぐ心構えとして

1967年8月26日に「青年会議所を通じて、県北総合開発を率先し、百年の大計に遺漏なきよう万全を期す為の勉強をし、地域の期待に応えられる人格を磨き合い、それによって微力ながら、地域の為に奉仕できることを心から願うものであります。」という設立趣意書と33名の同志によって久慈青年会議所は立ち上げられました。300余名の地域を想う心とその行動力を、2011年度理事長として39名のメンバーと共に受け繋いでいきます。

設立から44年目の本年、よりよい豊かな地域の未来(あす)に向け、「人」づくりを中心とした活動と運動を通じて地域へと還元していきます。久慈JCが地域に必要とされその期待に応えるため、同じ時代を生きる青年同士の縁を大切に切磋琢磨し、互いの知識を共有し高め合い、その知識を活かせる行動力・実行力のある人材育成を通じて、地域の地力を上げ持続的な発展に寄与してまいります。

### 変革の能動者であれ KUJI-JAYCEE

我々青年会議所のメンバーは、普段はそれぞれが仕事を持ち、更にはその企業において一定以上の責任ある立場を担っている者がほとんどです。また家庭を持った子育て世代の一員でもあります。私たちは様々な条件の中で人との繋がりから楽しさを実感し、悩みを話しあえる朋との時間で互いを知り、更には地域や未来への憂いや想いをJC運動という活動の中で共有し、個人としてまた公人としてより良くなろう、より強くなろうとしています。私自身も青年会議所での活動を通じて多くの方々との出会いから刺激を受け、たくさんの機会から学びを得てきました。それらは自身の仕事や地域での活動へと役立つことが多々あります。その中の一つが「知行合一(ちこうごういつ)」という言葉です。

「知行合一」とは中国明代に発した陽明学の中心的思想であり、幕末の維新を始動させた吉田松陰が用い、松下村塾に掲げた言葉です。「知(ち)」とは知ることや学ぶことを意味し、「行(こう)」とは行動することを意味します。「合一(ごういつ)」とはひとつにするという意味で、「知識と行動は常に一体であり、真の知るとは真の行動が伴ってこそ成立する」と考えます。逆に「知識があっても、その知識に行動が伴わなければ知らないことと一緒に」と言えます。

私たちは「明るい豊かな社会の実現」という同じ目的を共有しています。その実現は地域に暮らす全ての市民が「昨日より今日、今日より明日は良くなろう」という気持ちを持つことから始まり、一人ひとりが気づいたことから行動して行くことで真の変化が起きてくるのだと信じます。市民のリーダーを自負する私たちは「知行合一」を青年会議所の内だけでなく、常日頃の心構えとして持って行動していきたい。変革の能動者 KUJI-JAYCEE として。

### 生きる力を育て磨く

「生きる力」とは自ら進むべき道を強い意思で「選択する力」だと言えます。現代を生きていくには高度情報化社会で様々な情報が飛び交う中から自分の目的に応じて適切な情報を活用し、また多種多様な文化が交錯する国際化社会では自分が何をしたいかを見極めて行動していかなければなりません。「生きる力」を養うのに必要なことの一つは、幅広い選択肢をあらかじめ用意しておくこと。これは様々な情報の中から自分にとって適切な情報を選び出す力となります。もう一つは、他人と協調し、他人を思いやるなどの豊かな人間性です。これには、より多くの体験が必要であり、自分以外の人と協調して活動していくことで備わり、さらには「考える力」が養われて行くこと

になります。この「考える力」こそが「選択する力」を支え、「生きる力」となります。

「生きる力」は1時間、2時間の授業で養うことができるものではなく、10年後、20年後の将来において、「生きて働く力」となればよいのです。そのためには、即効性のあるものを求めるのではなく、長期的視点に立ち、ゆとりの中で学校、家庭、地域社会等の教育活動全体を通して子どもたちの考え方、学ぶ姿勢を見守り、育てていくことが必要です。更に、わたしたち大人も一緒になって「生きる力」を養い、子ども達に一生懸命に生きている姿を見せていくことが子ども達の「生きる力」を大きくしていきます。

企業や自治会、各種団体といった組織を一個人考えた場合、各々も「生きる力」を持っていなければなりません。青年会議所としての「生きる力」とは、メンバーの知力と実行力の結集と強い意思を持った新たな朋による活性化に他なりません。青年会議所には40歳定年制度があることで必然的に活性化が図られていきますが、裏を返すと衰退していくスピードも速いというリスクを背負っているということです。青年会議所が組織として活動をしていくには常にそのことを考えていかなければなりません。私たちは地域に必要なとされる久慈 JC となるためにも更なる個々の力の結集を行い、「生きる力」を磨いていかなければならないのです。

個人においても組織においても、地域全体が「生きる力」を養い磨いていくことによって「まちの力」が引き上げられていくのです。

## まちの力を引き上げる

「まちの力」とは個々の「生きる力」の結集だけでなく、地域の魅力を市民全体で共有・認識し、新たなまちのデザインを描いていくことによって飛躍的に高まっていくのだと考えます。

これまで43年間の久慈 JC の歴史の中で、まちづくり運動として多く取組んできたものが、地域の魅力を掘り起こし発信する事業で、これらは地域の誇りと活力を引出していくために行なわれてきました。近代になり全国統一様式での社会形成が進み、どこに居ても同じような生活ができるようになってきたことで、「結」といった共同社会に対する希薄化が進んできました。当地域においても同様であり、その問題を解決し地域が一体としていくために取組んで来たのが「誇り」の共有化なのだと考えます。

もう一つが、まちのデザインを描く事業です。子どもから大人までを対象として未来の地域の形を描き出してきました。これは夢の共有化を図り、地域の進むべき方向性を示すとともに、まちづくりの主役は市民自身であるということ認識するために行ってきた事業です。近年では公開討論会を通じ、投票による政治への参画とまちの未来を選択するという責任を持っていることを伝えてきました。今のまちを作り上げてきたのは、国や行政なのではなく、そこに暮らしてきた私たち市民が様々な選択をしてきた結果なのです。そして、その選択に責任を持たなければならないのです。更に私たちは今を生きるひととして、新たなまちのデザインを描き続けていくことも、まちの未来へ対する責任の一つなのだと考えます。

私たちは市民と一緒に「地域の誇り(魅力)」の掘り起こしと発信を行い、まちのデザインを描くことによって「まちの力」を引き上げていきます。

## 物事の本質をとらえ未来に進む

彼の松尾芭蕉は、俳句上達の秘訣を聞かれ「過去の自分に飽きることだ」と答えたそうです。絶えず努力して新しい境地を開いていくからこそ進歩があり、そうすることによって物事の本質により一層近づけると考えたのではないのでしょうか。また、彼は『奥の細道』の旅の間に「不易流行」という概念を体得し、それを弟子達に伝承しました。本質的なもの(不易)を追求するためには、常に変化(流行)をしていかなければならない、変化をする場合も本質的なものを踏まえていかなければならず、両者の根本は一体であるとしています。その概念を青年会議所に照ら

し合わせて考えると、「不易」とは、「明るい豊かな社会の実現」という創始以来の“不変の志”であり、そして「流行」とは、将来を見据え時代のニーズに応じた手法を駆使し、“不変の志”に着実に近づくための行動であると考えます。

公益法人制度改革は、昨年度公益法人取得に向け宣言を行なったわけですが、本年は申請と認可に向かって進むこととなります。先に述べたように「明るい豊かな社会の実現」のためこの機会を最大限に活かし、久慈 JC 内部のガバナンス強化と透明度の高い組織運営を目指して情報公開や情報発信と共に積極的に実行していきます。

## 2012 年に向けた取組み

竹は非常に柔軟であり、同時に強さを持った植物です。自身の成長のために、太陽からのエネルギーを吸収しやすいように早く真直ぐに伸びていきます。またその体は均等な間隔によって配列している節によって構成されています。竹はこの節があるために、風や雪によって大きくたわむことがあっても折れることが少ないといえます。このことを私たちの組織に当てはめて考えると、一定期間ごとに過去を振り返り検証していく節目を設けることにより、竹のように柔軟かつ強靱な組織を作り上げることができてきます。2012年は、創始からの“不変の志”(不易)を継承し、時代に即した活動(流行)を進めていく上でも、40周年からの過去5年間を振り返り検証し更なる5年間に受け繋ぐ大切な節目となるよう、今年度から準備を進めてまいります。

また12年ぶりの開催となる公益社団法人日本青年会議所東北地区岩手ブロック協議会会員大会久慈大会に向けての準備も同時に進めてまいります。2000年に開催して以来となる、本大会の主管 LOM として、未来に繋がる会員大会の開催となるよう久慈の自然や人・食材をフルに堪能していただき、久慈の力を伝えることが出来るよう、私たちが久慈の魅力の全てを知り共有することから始めてまいります。

## 運動の連鎖による JC の可能性

今年度は、2つの事業グループと2つの特別グループ、それに総務・事務局で組織構成をしています。事業を通じて、私達の考えや運動を形にし、総務・事務局が外部へと発信していきます。また事業を通じて知ったことが、特別室により2012年度以降に“不変の志”と共に繋がっていくことでしょう。青年会議所は単年度で役職が変わることにより、時代の流行をキャッチしながら色々な手法で実践を積重ねてきました。「知行合一」による知力と実行力を兼ね備えた JAYCEE による運動が、「不易流行」といった柔軟かつ芯が通った組織へと連鎖し続いていくのです。久慈 JC の40年を越えた繋がり、今を受ける私たちは感謝し、JC 運動の可能性を拓き、その時代の担い手として「生きる力」を磨き、よりよい豊かな未来に向けて「まちの力」を引出していきます。

## 最後に

**「むずかしいことをやさしく、やさしいことをふかく、ふかいことをおもしろく、おもしろいことをまじめに、まじめなことをゆかいに、そしてゆかいなことはあくまでゆかいに」**

これは作家の故 井上ひさしさんの座右の銘です。私たちは青年会議所や会社や家庭の中で、何かを説明したり教えたりと、「伝える」という機会が多くあります。「むずかしいことをやさしく、・・・」は難しい単語を並べたり、上辺だけをなぞってみたり、中途半端な知ったかぶりではできないことです。物事の本質を十分に理解して、さらに伝えたい相手の事を知っていてこそ、初めてできることなのだと考えます。

青年会議所の活動も同様であり、様々な事業を通じて知ったことを、他人の言葉を借りて伝えたのでは、きっと相手には伝わっていかないでしょう。まずは私たちの活動自体がやさしく・ふかく・おもしろく・まじめに・そしてゆかいでなければなりません。より多くの市民を私たちの活動に参加し、協力していただけるようになるためにも、「むずかしいことをやさしく、そしてゆかいに」活動していきましょう。